

# 留学生いわて

2009年度 No.22 岩手県留学生交流推進協議会



岩手大学外国人留学生スキー研修

## 留学生のみなさんへ

一関工業高等専門学校長 丹野 浩 一



わが国で学ぶ留学生の数は日本全体で現在12.2万人あまりになるそうです。国際化の時代を迎えて、世界の留学生は10年後にはおよそ3倍に増えると予想されており、わが国でも先般留学生30万人計画が打ち出されましたから今後その数が急速に増えていくことと思います。年々世界が狭くなってきていることを感じます。

岩手県で学ぶ留学生の出身国は、東南アジアをはじめとして22カ国に及んでいます。宗教や生活文化が異なる人々が仲良く円滑に学生生活を送っていることに対し敬意を表したいと思います。

ところで、自分自身を高く成長させるために、日本で学ぶことに憧れを持って来た方がほとんどではないかと思えます。母国からみていた日本と、いま実際に学んでみて感じている日本の印象を比較されていかがでしょうか。自然豊かな岩手の地での留学を通して、みなさんの夢がかなえられることを願っています。また、良い意味でお互いが競い合う中で、常に憧れの目で見つめられるような日本であり続けられれば良いと思っています。

さて、みなさんにとっては、目的とする学業・研究を深め、専門的能力を高めることがもっとも大事なのでしょう

が、もうひとつ、その国の文化などを知る機会を増やすことも大事であると思います。学校や大学などと寮や下宿の往復だけではなく、留学している間に色々と日本中を見てまわることをお勧めします。岩手県はもちろんのこと全国を旅すれば、それぞれの地域の人々の心の温かさなども知ることができ、いっそう日本の良さを知ることができると思います。多くのことにふれると、ものの見方が大きく変わっていく自分に気付くと思います。岩手にはそういう意味で歴史に培われたたくさんの文化が根付いています。また風光明媚で山、川、海それぞれ豊かな自然に囲まれている県です。少々冬は寒いですが、スキーなどの楽しみがあります。私も外国を訪れたときには、観光地だけではなく都市や地方の隅々を敢えて旅するようにしています。それは色々なところを旅すると思いがけない出会いがあり、人々の温かさを肌で感じることができるからです。これまでも色々なところを訪れてみて、大げさに言えばその都度世界観が変わったことを記憶しています。ぜひ、学業・研究に疲れたら、時間を見つけて旅してみることをお勧めします。そうして育まれた友人などとの絆を強め、将来母国と日本の友好の架け橋となってくださることを希望します。

それぞれの国の固有の文化を尊重し大事にしつつ、今後いっそう国際交流の輪を広げ、皆さん自身や国々が協調し合い、互いに進化し発展していくことを期待します。



# 平成21年度 岩手県留学生交流推進協議会報告

## 岩手県留学生交流推進協議会総会及び運営委員会

平成21年7月22日（水）午後1時30分から岩手大学学生センター2階会議室で総会と運営委員会を行いました。総会では始めに会長の藤井克己岩手大学長から挨拶があり、運営委員長の大野眞男岩手大学副学長・国際交流センター長の議事進行で本協議会の運営や今年度の事業計画について審議いたしました。また、今年度の構成団体の地域交流等実施計画や平成21年5月1日現在の各高等教育機関に在籍する外国人留学生数等について報告がありました。

議事終了後には本協議会や留学生支援に関して意見交換をおこないました。



藤井会長(右)と大野運営委員長



## 公開討論会・交流懇談会

総会及び運営委員会終了後、午後3時30分から岩手大学学生センター2階G29講義室で「外国人留学生と日本人学生の公開討論会“いわて、これが素晴らしい”」を行いました。発言者として岩手県立大学、富士大学、一関工業高等専門学校、岩手大学から外国人留学生各1名、また、進行役として岩手大学の日本人学生1名が参加しました。

70名ほどの聴衆の前で、岩手県の第一印象や岩手での生活などについて意見交換を行いました。討論会の最後には聴衆からの質問に外国人留学生が答える場面もあり、盛会のうちに終了しました。この討論会の内容は次ページに掲載しましたので、ぜひご覧ください。

公開討論会終了後には、岩手大学学生中央食堂で交流懇談会が行われ、多数の外国人留学生、日本人学生や関係団体の方が参加し、懇親を深めました。



挨拶をする佐藤一関高専副校長





# “いわて、これが素晴らしい！”

## 【公開討論会発言者】

進行役 岩手大学教育学部4年 相川和慶さん（一関南）  
アイカフ カズノリ



岩手県立大学社会福祉学部4年  
陳 浩さん  
チン コウ（中国）



富士大学経済学部3年  
朴 哲さん  
ピョオ スッ（中国）



一関工業高等専門学校物理化学工学科4年  
GAMA TRIGAGEMAさん  
ガマ トリガガマ（インドネシア）



岩手大学人文社会科学部3年  
MUNKHJARGAL BATTUULさん  
ムンフジャラガル バトール（モンゴル）

最初に岩手県留学生交流推進協議会会長の藤井克己岩手大学長から挨拶がありました。その後、参加者の自己紹介、また、意見交換をおこないました。

## どんなきっかけで岩手に留学することになったのか？

MUNKHJARGAL BATTUUL（以下、トール）

モンゴルで初めての日本語高校に入学し、日本語を勉強した。モンゴルの大学で半年ぐらい国際関係の勉強をしたが、日本の大学に留学したいと思い日本留学試験を受験した。留学先を探したところ、岩手大学人文社会科学部国際文化課程を見つけ、そこで勉強したいと思ったので入学した。

陳 浩（以下、陳）

最初の2年は東京の日本語学校で学び、東京の工学系の私立大に入学したが、学費や生活費が高く、親からの仕送りも断っていたので、昼夜関係なくバイトをしていた。でも、あまりに辛くて、何のために日本に来ているのかを考えていた。その時、高校時代の友人が岩手にいて、その人から県立大学の話を聞き、まずは見学と思い岩手に来たところ、新しい大学で、キャンパスもきれいでいいなあと思ったので入学した。

朴 哲（以下、朴）

岩手に留学したいという特別な理由はなかった。中国の日本語専門学校で勉強していた3年生の時、富士大学とその学校が協定校になったので、日本で日本語学校に行かなくても直接大学に入学できるので富士大学に入学した。

GAMA TRIGAGEMA（以下、ガマ）

高校生の時に留学したいと強く思っていた。そのため、母国の日本大使館で文部科学省の国費留学生試験を受けて合格した。後日、留学先は一関高専という連絡があって、場所はどこでも留学しようと思っていたので入学した。

## 岩手の第一印象は？

トール 岩手に来る前は東京と仙台にいたので、岩手のイメージは全くなかった。夜行バスで朝5時頃に岩手に着き、バスを降りて周りを見た時、田舎だと思った。でも、大学のキャンパスが広く、いろいろな分野を勉強できるいい場所だとも思った。

陳 東京にいた時はあまりあちこち行かなかったのでも、東京＝日本と思っていた。岩手に来た時は冬場で雪が降っていてすごいと思った。故郷も雪が降るので、子供の頃から雪が好きだった。今でも雪が降ると変にテンションがあがる。

電車について、東京では3分ぐらいで電車が来るが、その感覚で電車に乗ろうと駅に行ったら電車が出たばかりで、次は1時間後と言われた。どこか出かける時は電車の時間をちゃんと調べなければと思った。

東京から引っ越しして、荷物の整理をしたら丸一日かかってしまい、気付いたら夜中の1時だった。近くにコンビニがあったと思い、行ってみたらもう店が閉まっていたびっくりした。

朴 第一印象は「農家」と「田舎」と「畑」しかない。仙台空港に着いて、大学まですぐだと思っていたが、車で移動するうち、山や農家が見えてきて、最後に学校に着いたら完全に田舎だと思った。

ガマ 東京はとてもペースが速くて、岩手に来てゆっくりで平和だと思った。自然が良くて勉強にもいいと思った。

## 生活してみて気付いた母国との違い、困ったこと、感心したことは？

トール 物価の違い。最初にショックを受けたのは、日本に初めて来て、千葉に住んでいる先輩の家に行った。荷物が多かったのでも、タクシーに乗ったら、初乗りで650円ぐらいだった。モンゴルだったら30円ぐらいなので、大きな差があることに気付い





た。少し慣れてきたが、今も同じように感じている。

日本のサービスにも違いを感じた。コンビニで「いらっしゃいませ」、何も買わなくても「ありがとうございます」など、とても丁寧でいいサービスだと思う。ホテルでウェイトレスのアルバイトをした時、日本人にサービスする、自分がサービスする側になるというのは、物凄く大変で、サービスは責任を持ってする仕事なんだと分かった。

日本人の若者がとてもおしゃれだと分かった。面倒だと思ったのはゴミの分別。学生寮に入ったが、寮生の9割は日本人学生で日本の生活に慣れてなければいけない環境だった。今考えると、自分たちの住んでいる環境のことを考えなければいけないので分別に慣れたが、1年後、モンゴルに帰ったら、分別という考えがなかった。その状況を見て、心が痛み、自分が変化したと感じた。

**陳** 長く日本にいたので違いが分からなくなった。ただ、最初に思ったのは、違う国なのに同じところがあるのが不思議だと思った。

**朴** 交通面について、車が左側を走っているのを見て違うと思った。また、警察の厳しさも驚いた。自転車のライトをつけ忘れて、何回か注意された。中国の自転車にはライトはないと思う。

**ガマ** 一番の違いはお風呂と温泉。インドネシアでは他人と一緒に入るのは恥ずかしいし宗教的にも禁止されているが、日本ではしょうがない。合宿研修で先生にシャワー室があるか聞いたが、ないようだったので我慢した。

### ■ 日本に来て、母国について初めて気付いたことは？

**トール** 初めて会った日本人に最初に聞かれる質問は「相撲好きですか？」だ。モンゴル相撲は母国でとても人気があるが、日本でも知っている人がたくさんいるんだなと思った。

日本に来て母国に貢献したいという気持ちが強くなっている。また、自分の国の歴史にも関心を持つようになった。

「今も馬に乗って学校に行っていますか?」、「テレビはありますか?」といった質問を日本人からされて、日本人のモンゴルに対する知識が少ないと感じた。首都のウランバートルは仙台と変わらないくらい発展していて、現在のモンゴルを日本人に伝えたいと思っている。

**相川** 相撲は好きですか?好きな力士は?

**バト** 好きです。好きな力士は朝青龍です。

**陳** 小学校の頃、中国の面積や人口を習ったが、数字を覚えるだけで感覚が分からなかった。日本に来て、比べた時に初めてすごいなと気付いた。例えば、盛岡から東京まで新幹線で3時間は遠いと感じるが、地元の瀋陽から北京まで4時間ぐらいは近いと感じる。「遠い」と「近い」の感覚が変わってきている。

**朴** 日本に中国製品がたくさんあるのにびっくりした。100円ショップで生活用品を揃えたが、ほとんどが中国製だった。何を買っても中国製ばかりで、どこに行けば日本製のものを買えるのか知りたい。中国と日本の貿易が盛んだということに日本に来て気付いた。

**ガマ** みなさんに聞きたいのですが、バリ島はご存知ですか?バリ島はそんなに有名じゃないと思っていたが、友達に聞いたらみんな知っていた。バリとインドネシアは別の国と思っている人やインドネシアはバリの一部と思っている人もいて驚いた。

### ■ 異文化の中での生活で、自分が変わったことは?

**ガマ** 体重が変わった。日本の食べ物に慣れていないのが原因で痩せていったが、最近はおいしい物が分かってきて、体重が戻ってきている。

インドネシアではイスラム教の人がほとんどなので、イスラム法によって生活している。日本では同じような生活が難しいが、どうすればイスラム法によって生活できるかと考えることが多くなって、やってはいけないこと、やらなければならないことの判断力が上がった。

**朴** 家族と離れて生活していることで、自分で食事を作ったり洗濯するようになって、自立心が強くなったと思う。

**陳** 自分が生まれた時、中国は「一人っ子政策」だったので、日本に来る前は自己中心的だった。日本に来て、いろいろな人と関わったりすることで、他人の立場で物事を考えられるようになった。



日本に行く時、親は半年ぐらいで帰ってくるだろうと思っていたし、自分もそんな感じで思っていたが、このまま帰ってはだめだと思ったのが今につながっていて、昔より強くなったなと感じる。

**トール** お金の大切さが分かった。モンゴルでは毎日親からお小遣いをもらっていたが、日本でバイトをするようになって、お金を手に入れることがどんなに大変なことなのか分かった。

モンゴルでは謝ることを分かっているけどあまりしなかったが、日本人が一日に何回も謝っているのを見て、最初は驚いたが、今は謝ることがすぐできるようになった。また、挨拶もちゃんとできるようになった。

**相川** 私には留学経験はないが、みなさんの留学体験を聞くことができ、本当によかったと思っている。

### 聴衆のみなさんからの質問

**岩手での生活で困った時の解決方法は？行政に頼って解決したことはありますか？**

**トール** 担任の先生や友達に相談して解決している。

寮からアパートに引っ越さなければならなくなって、ホームシックになるぐらい大変だった。その時、家具や家電がなくて困っていたが、岩手県国際交流協会から中古の家電などをもらって助かった。

**陳** あまり思いつかないが、友達に相談したり、お酒を飲んで忘れてたり…という感じで。

行政に関しては、何かあれば役場に相談すれば大丈夫と思っている。

**朴** 最初、日本語をよく話せなかったのが、周りの留学生や先生に助けもらった。日本語を話せるようになってからは大学の留学生課や学生課に質問して解決している。今は日本の友達もいるので相談している。

**ガマ** 一関高専ではチューター制度があるので、困った時はチューターに相談している。宗教的なことは先輩や同級生に相談している。

**母国と日本では「恥ずかしい」の意味が違いますか？言葉や行動で**

**朴** 国によって文化や考え方が違うので、「恥ずかしい」の範囲が違う。私の場合、先生から質問されて分からないのは恥ずかしい。

**ガマ** 私にとっては、間違ったことをした時は恥ずかしい。また、お風呂に一緒に入るのも恥ずかしい。

**朴** 先週、東京のおばさんの所に遊びに行って、日本



のサウナに初めてに入った。その時、男子更衣室に掃除のおばさん達が入ってきて、本当にびっくりしたし、恥ずかしかった。(苦笑) 日本のサウナは全部そうですか？

**相川** 自分の国では当たり前行動が、他の国の人には失礼だったり、タブーであったりという場合もあるが、そういった違いを「そんなこともあるよね」と慣れるのが国際化かとこれまでの経験で思う。

**日本の学生と比べると、特にアジアからの留学生は母国に尽くしたいという気持ちが強いと感じているが、みなさんはどのように尽くしたいと思っていますか？**

**トール** 今は英語を中心に勉強しているが、将来は大学院に進んで国際関係について研究したいと思っている。そのあとは、帰国して、モンゴルと日本に関係する仕事をしたいと1年生の時思っていた。今は、高校時代や現在もテレビ局でアルバイトをしているので、テレビ局で海外ニュースを作る仕事をしたいと思って、勉強をがんばっている。

**陳** 日本に来たばかりの時は、パトールさんのように将来は母国に帰って国際友好のために仕事をしたいと思っていたが、だんだんそういう考えがなくなってきた。今は大学で福祉の勉強をしているので、福祉の考え方でやっていけば、どこでも大丈夫だと思っている。

**朴** 私はまだ国に帰るという考えがないので、まだ分からないが、さっきも言ったとおり日本と中国の貿易が盛んなので、それに関係する仕事をしたい。でも、卒業までまだまだなのでゆっくり考えてみたい。

**ガマ** 最初はイスラムのことやインドネシアのことを日本人に紹介したり、帰ってから、日本人や日本のことを紹介したいと思っていたが、今は友達と一緒に会社を作りたいと思っている。



# 留学生紹介

## 日本留学の心得

耿 慧 (コウ ケイ) (中国)

岩手県立大学大学院 ソフトウェア情報学研究科1年



皆さん、はじめまして、私は中国の山西省から来た耿慧と申します。

11月に入って、岩手はいよいよ雪の季節になりました。実家は岩手とほぼ同じ緯度ですが、内陸気候なので、雪はこれほど多くはなかったです。寒さに弱い私にとって、一年の中でほぼ半分の時間が雪国の岩手ではちょっときついです。5月に入った後のどこにも負けない自然景色が大好きです。

岩手に来たきっかけは、岩手県立大学が出身校の大学と姉妹結縁を結んでいるおかげです。研究をしていく上での資源が豊かで、いくらでも勉強できる学校と思います。特にソフトウェア情報学の学部・研究科の就職率が95%以上で、卒業生が社会に非常に認められているとは言えます。学校のあたりに森があって、桜や紅葉の季節になると、すごくきれいな景色が見えます。このような立派な学校で留学して、頑張らないと本当にもったいないと思います。

日本に来てから、言葉の使い間違いで、たくさんの笑い話がありました。例えば、来たばかりのある日、ジュースを飲んだ後の空き缶を捨てようと思いましたが、研究室の外にいくつかのごみ箱があって、どちらに捨てればいいのか分からなくて、先輩に聞

きました。

「すみません、ガンはどこに捨てますか」

…… (先輩は沈黙していた)

「ガン？」

「はい」って、私は空き缶を持ち上げながら、回答しました。

「あ！カンですか……」

「え?! ……」と言葉の使い間違いがわかった瞬間に、あまりにも恥ずかしくて「すみません」しか話せなくなりました。また、中国から戻ってきて、お土産を贈った時に、「たいしたものではない」と言おうと思ったのに、「大切なものではない」と言ってしまって、相手をびっくりさせました。このようなことは今もたまにあります。周りの人たちはもうだんだん慣れてきたようで、おかしい日本語を話したときに、相手はもう驚くことなく、意味を当てたり、聞いたりして、理解してくれるようになりました。

言葉のほかに、日本の礼儀や習慣などにもいろいろ勉強してきました。例えば、「日本人の家で招待された時、お茶碗が奇麗で、細かく見たくても底を見るのが失礼なこと」など、これは事前に分からないと、知らないうちに失礼なことをやっちゃうので、これからはもっと気をつけるようにしたいと思います。

異文化のコミュニケーションには言葉や文化の壁を乗り越えなければならぬと思います。他国の文化を尊敬し、自分の気持を適切な言葉で相手にちゃんと伝えることの大切さがこの留学の一年間で深く心得ました。今はそろそろ就職活動が始まるころですが、これからは日本の企業文化やビジネスマナーをもいろいろ勉強したいと思います。



# 留学生紹介

## 千里の道も一歩から

劉 曉文 (リュウ シャオウエン) (中国)

富士大学経済学部2年



皆さん、こんにちは、私は劉曉文と申します。中国から日本に来て、はや1年半になりました。今、岩手県花巻市にある富士大学の経営情報学科で勉強しております。

私の出身地は、中国山東省の青島市です。漢字はチントウと読みます。青島は、山に囲まれ海に臨み、風光明媚で、気候もよく、一つの独特な特色を持つ海浜都市です。そればかりでなく、青島は2008年第29回オリンピック開催都市としてヨット競技が開かれました。また、青島にある日本企業がいっぱいあります。青島のホンコン町(有名な料理屋の町)に日本料理屋がいっぱい並んでいます。例えば回転寿司屋や、日本ラーメン屋など何でもあります。私は中国にいたとき、日本料理にすごく興味がありました。日本料理の中でいちばん好きな食べ物はお寿司です。毎月、二回ぐらいお姉さんと一緒に食べに行きました。

私の趣味は読書です。中国にいたときいろいろな本を読みました。歴史についての本がとても好きです。その中で中国古代の『史記』と孔子の『論語』を一番多く読みました。皆さんがよく知っている『三國演義』も大好きです。富士大学に来たばかりのころは、富士大学の図書館に驚きました。なぜかと言

うと、本棚にいっぱい中国語で書いた本が並んでいました。『論語』だけではなく『二十四史』も『周易』もあります。そのおかげで私は夏休みのとき、夕涼みかたがた、図書館によく寄って、中国の国学をたくさん読み、とても満足でした。

留学生として日本で生活するには、まず日本語能力を身に付けることが最も重要だと思います。私たちの日本語の授業は1週間に2回あって、文法や会話、漢字、作文などを練習します。本を読んだり、テープを聞いたり、ビデオを見たりします。授業中は先生も私たちも日本語だけ使います。始めに、簡単に復習をしてから、新しい単語や文法を習います。先生は絵や動作を見せて説明してくれます。何回も文章を聞かせてから、私たちに話させます。私たちは例となる文法を使って文を作ったり、先生の質問に答えたりします。

今の私は、12月の日本語能力試験1級の合格を目指して、一生懸命に勉強しています。とても難しいと思っていますが、まずはどんなことでも自ら挑戦してみないと自分の能力が分かりません。

千里の道も一歩から。

私は中国にいたとき、親からこのことわざをよく聴きました。中国語で「千里之行始于足下」と書きます。文字の表面から見ると、とても遠い道のりも、まずは一歩から始まるということです。すなわち、どんな難しいことも身近なことから始まるということです。私はいままでこのことわざを座右の銘としています。これから日本での暮らしは長く続きます。どんなことにもこのことわざのとおり、まず一歩から始めて、経験を積み重ねることが重要だと思います。

これから頑張りますので、皆さん、よろしくお願ひいたします。



# 留学生紹介

## 一関での学生生活

GAMA TRIGAGEMA (ガマ トリガゲマ) (インドネシア)

一関工業高等専門学校 物質化学工学科4年

インドネシア出身のガマと申します。2007年の春に私は、日本に留学することになりました。一年間、東京日本語教育センターで日本語を勉強して、2008年の春から一関高専に編入学しました。

私は、一年間、日本語を勉強しましたが、最初は高専での先生方や友達の話しがぜんぜんわからなくて大変でした。一般の日本人と話すことができなかったし、授業でもわからないことばかり出てきました。

しかし、遠く離れている家族や周りの人が応援してくれたので、孤独という気持ちは感じませんでした。授業のことについても先生方が親切に教えてくれたり、学生チューターも日常生活について、色々助けてくれたりしました。自分からも積極的に頑張らなければいけないと思いました。そういった人た

ちのおかげで、また生活しやすいという環境にも恵まれ、現在、私は心配もなく楽しく学生生活を過ごしています。一番楽しい時は、日本人や他の国の留学生と交流する時で、色んなことが勉強になりました。

現在、一関高専では7名の留学生がいます。それぞれインドネシア、マレーシア、ラオス、韓国、モンゴル(3名)という国から来ました。出身や文化が違っていても皆色んなことに協力しています。時々皆一緒に岩手県内で旅行することもありました。

また、将来についてですが、とりあえず私は大学院までに行きたいと思います。エンジニアとして社会において自分ができることで役に立ちたいという思いがあります。



(左側から3人目が筆者)



# 留学生紹介

～～笑顔で毎日を～～

劉 紅嬌 (リュウ コウキョウ) (中国)

岩手大学教育学部1年



(左から2人目が筆者)

日本に来てからあっという間、既に2年が経ちました。楽しく、充実した留学生生活を過ごしています。この2年間はずっと盛岡に住んでいます。そして、姉との2人暮らしをしているので、心強いとよく感じます。ここで生活しているうちに、冬の寒さも、夏の暑さも、すっかり慣れ、いろんな親切な人と出会い、まるで盛岡が私の第二故郷のように大好きです。

高校を卒業してから、日本の大学に入りたいと思って、当時岩手大学の研究生として、在学していた姉のアドバイスで、盛岡情報ビジネス専門学校の日本語学科に入学しました。そこで、一年半の間、日本語と大学受験について学ぶことにしました。やっと今年の四月に岩手大学に合格しました。

盛岡が大好きだし、自分が勉強したことができるし、そもそも日本語の豊かさやおもしろさなどの興味を持っている私にとって、岩手大学は私の第一志望校でした。ですから、合格発表のとき、自分の受験番号を見つけて、喜んで姉と抱きあって、思わず涙がこぼれたことをよく思い出します。合格したのは自分の努力だけでなく、最も大切なことは周りの人々からの力によるものだと思います。専門学校の先生方にも、いろいろと教えていただいたから、心より感謝しています。大学に入ることができたのは、先生達といつも支えてくれる友達のおかげだと思います。

ここ8カ月の大学の勉強と生活のなかで、色々と学ぶことができたとしみじみ実感しています。最初、大学に入った時、履修申告のやり方もよくわからなかったし、聞き取りも良くできなくて大変なことばかりでした。そのとき、一緒に講義に出た日本の学生さんから熱心に教えていただいたり、ノートを参

考にさせてくれたりして大変助かりました。そして、日本の友達ができまして、みんなと一緒に異文化交流したり、遊んだりしてとても楽しかったです。今ここで載っている写真は、演習の授業に出る友達と一緒に安比高原で撮ったものです。これから、有意義な四年間を過ごしたいと思っています。そして、日本の友達や先生がまわりにいると、知らず知らずのうちに、日本語が上達できると信じています。こんないい雰囲気、留学生活の日々を頑張りたいと思います。

また、一番ありがたいのは、岩手大学の国際課の皆さまからの応援です。学習面でも、生活面でも、困ったことがあったら、相談に乗っていただくたびに、いつも熱心で留学生の私たちのために、アドバイスをしてくれて、感謝の気持ちでいっぱいです。大学で出会ったみんなの親切さを確実にしみじみに感じました。

さらに、大学生活を充実するために、私は積極的に国際イベントやボランティアなどをやるようになりました。そこで、様々な国の友達ができ、非常にうれしかったです。当初の「大学の生活が不安だなあ」と思っていた私の悩みはだんだんなくなりました。

今までの生活で、暮らしの楽しさを味わったときもあったし、つらいことを痛感したときもありましたが、やはりいい思い出をよくしています。将来はどこにいっても、いつまでも、私にとって、日本での留学生生活を宝物として、忘れずにいたい。現在日本語についての知識を勉強して、将来大学を卒業しても、大学院に進学し、深く研究したいです。日本語についての知識を身につけ、将来中国に帰って、日本語教師になり、日本語を教えるとともに、日本文化や日本の教育の良さを中国の日本語学習者に伝えて、学んだ知識を生かせるように頑張りたいです。そのような目標を目指して、ますます強くなり、未来がもっと良くなるように努力していきたいです。私の未来に困難なことがあっても、全力で乗り越えて、まさにアンジェラ・アキの「手紙～拝啓十五の君へ～」という歌の一部で「負けないで、泣かないで、消えてしまうそんな時は、自分の声を信じ歩けばいいの、笑顔を見せて、今を生きていこう」というように、それを励みに、これからも毎日笑顔で頑張っていきたいと思います。



### 岩手県ユネスコ協会連盟

ユネスコ（UNESCO）は国際連合教育科学文化機関の略称であり、国際連合傘下にはありますが、独立性を持つ専門機関で、世界各国の政府間で造られたものです。現在の加盟国数は193力国で、本部はパリにあり、事務局長（ユネスコのトップ）は、この十年は日本人の松浦晃一郎氏（元フランス駐在大使）が務めていましたが、2009年の11月半ばで任期を終了し、交代しました。

ユネスコの目的は、諸国民の教育、科学、文化の協力と交流を通じ、国際平和と人類の福祉を促進することであり、『ユネスコ憲章』（1946年発効）の前文にある「戦争は人の心の中に生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」が、基本理念です。言い換えれば、「共生の精神を築くこと」がユネスコの任務です。第2次世界大戦で大きな被害を受けた世界の人々にとって、ユネスコの誕生は大きな共感を与えました。特に戦いに敗れ、300万以上の人命を失い、国土が荒廃した日本人は、二度と戦争を起してはならないという思いが痛烈であり、ユネスコに未来への希望を見出しました。世界の中で最も迅速に反応したのは、お隣の仙台市の人々でした。東北大学の土居光知、桑原武夫などの先生たちは、空襲で用紙もない中で、たまたま家にあった障子紙にユネスコ誕生を祝しユネスコに協力する思いを込めた文書をパリに送りました。やがてそれはユネスコ総会で披露され、大きな感動を呼び、のちの日本のユネスコ加盟（1951年）への道を拓きました。日本の国際連合加盟（1956年）の5年も前のことです。現在、仙台ユネスコ協力が設立された7月19日は、日本では「民間ユネスコの日」となっています。仙台に民間ユネスコ協力が誕生したとの報は全国に広がり、現在全国に約270の民間ユネスコ協会があり、全世界には約5000の協会があるといわれています。岩手県には20のユネスコ協会があり、全国一の協会組織率になっています。どうしてこんなに組織率が高いのかの大きな理由は、ユネスコの前身である1920年代の国際連盟時代に設立された「国際知的協力委員会」の事務局長として中心的役割を果たしたのが、岩手県出身の新渡戸稲造博士であったからです。委員会のメンバーは、ベルグソン、アインシュタイン、キューリー夫人など当時世界の最もすぐれた学者、文化人12人であり、のちに岩手県出身の田中館愛橘博士も加わっています。そこで議論された平和、教育、文化財の保護、科学の問題などが、のちのユネスコに引き継がれたのです。

いま、岩手県ユネスコ協会連盟（民間ユネスコ）が取り組んでいる事業は、20のユネスコ協会の参加による県大会などいろいろありますが、特に、次の時代を担う高校生にユネスコを理解してもらうために、岩手県高等学校文化連盟の国際理解専門部と連携して、高校ユネスコ研修会を開催しています。毎年1月の開催となっていますが、1泊2日の日程で、基調講演、分科会（地球環境、国際貢献、世界遺産、多文化共生、識字問題、等々）、交流学習会、学習成果発表会などを行っています。留学生の皆さんにも、フォーラムのようなものに、参加していただく機会を作ればと思っています。





# 留学生関係資料

## 地域交流等実施計画（平成21年4月～）〔平成21年5月1日調べ〕

機関・団体名	事業・行事名称	開催時期	場 所	概 要 等
岩手県留学生交流推進協議会	外国人留学生と日本人学生の公開討論会	H21.7.22	岩手大学	一般に公開で外国人留学生と日本人学生がテーマについてそれぞれの視点から意見を交わし、参加者のみならず地域住民も含めて相互理解を深める
	交流懇談会	H21.7.22	岩手大学	岩手県内に在学する外国人留学生相互の交流・親睦と日本人学生及び地域の交流団体と交流する
岩手大学	留学生オリエンテーション	H21.4.8 H21.10	岩手大学	留学生及びチューターを対象として、勉学・生活等についてオリエンテーションを実施
	日本の伝統文化着物「着付け体験」	H21.6.9 H21.12	岩手大学	留学生に日本文化の1つとしての着物体験
	ガーデンパーティー	H21.6.6	岩手大学国際交流会館	留学生主催で、それぞれの国の料理を提供し、地域住民との交流を図る
	北東北3大学合同外国人留学生実地研修	H21.11 (2泊3日)	秋田大学	岩手・青森・秋田の国立大学で学ぶ留学生が集まり、研修会を行い、お互いの留学生活等について議論する
	盛岡さんさ踊り参加	H21.8	盛岡市内	地域の伝統文化行事に留学生が参加し、市民との交流を図る
	外国人留学生実地見学旅行	H21.9	新潟県	岩手大学に学ぶ外国人留学生が我が国の文化に実際に触れることによる日本への理解を深める
	外国人留学生スキー研修	H22.1 (2泊3日)	安比高原スキー場	スキーを通じて雪国である岩手の冬に親しみ、留学生相互、並びに教職員との交流
	外国人留学生と学長等との懇談会	H21.10 H22.3	岩手大学	学長、副学長等と留学生が、テーマに沿って意見交換する
	留学生卒業・修了生懇談会	H22.3	岩手大学	岩手大学を卒業・修了する留学生と関係教員・交流団体等との交流
岩手県立大学	外国人留学生オリエンテーション	H21.4	岩手県立大学	留学生の学生生活に係る説明会
	留学生歓迎会	H21.4.10	岩手県立大学	新入学留学生と在学留学生及び教職員と日本人学生との交流会（ティーパーティー）
	日本語補講	H21.4～H21.7 H21.10～H22.1	岩手県立大学	留学生への日本語学習支援
	留学生歓送会	H21.7 H22.3	岩手県立大学	本学を去る留学生の歓送会 在学留学生と教職員、日本人学生とのティーパーティー
	盛岡さんさ踊り 大学祭	H21.8 H21.10	盛岡市内 岩手県立大学	岩手県立大学チームとして出場予定 岩手県立大学大学祭
富士大学	スポーツフェスティバル	H21.6.18	富士大学	学生各々が希望する種目に参加し、スポーツを通して交流を図る
	花巻祭り	H21.9.11～13	花巻市	男子は半纏、女子は浴衣を着用し、花巻市の伝統的な祭りに参加する
	紫陵祭	H21.10.17～18	富士大学	富士大学「紫陵祭」の屋台コーナーで、来場者に母国の料理等を紹介する
	遊YOU学園祭	H21.11	北上市	北上市国際交流ルームの学園祭に参加し、交流を図る
盛岡大学	盛岡大学言語教育研究委員会(MODIL)言語教育ワークショップ	未定	盛岡大学図書館学習室	「言語」をキーワードに多様なジャンルから講師を招き、話題提供や実習を行う
	盛岡大学言語教育研究委員会(MODIL)国際学術フォーラム	H21.12	盛岡大学A205教室	世界の文化的・社会的な動きを最近の言語研究から読み解く
	盛岡大学言語教育研究委員会(MODIL)チャットタイム	後期	盛岡大学	英語母語話者と20分程度会話し、英語での会話を鍛える
	盛岡大学言語教育研究委員会(MODIL)集中英語キャンプ	夏季 冬季	国立岩手山青少年交流の家	英語母語話者を交えて、一泊二日、英語のみを使用し英語力を鍛える



# 留学生関係資料

機関・団体名	事業・行事名称	開催時期	場 所	概 要 等
盛岡大学	盛岡大学学生国際交流委員会 (MIEC) 学生通訳ボランティア	H21.5.13～17	岩手県営球場	交流試合を行うため来盛した豪州野球チーム滞在中のボランティア通訳 (主催: 岩手県野球連盟)
	盛岡大学学生国際交流委員会 (MIEC) わんこそば大会	H21.9	東屋	交換留学生の歓迎会として、盛岡名物わんこそばを体験する
	盛岡大学学生国際交流委員会 (MIEC) 聖陵祭国際交流イベント [SAMPO]	H21.10.10 聖陵祭(学園祭)期間中	滝沢森林公園	盛岡近郊に住む留学生や外国人を募り、学生や一般の方々との交流を目的としたウォークラリーを行う
	盛岡大学学生国際交流委員会 (MIEC) ハロウィンパーティー	H21.10	盛岡大学セミナーハウス	盛岡近郊に住む留学生や外国人を招き、ハロウィンパーティーを行う
久慈市	クライバダ市姉妹都市締結20周年記念事業	H21.7～9	リトアニア・クライバダ市、久慈市	訪問団の派遣(調印式、物産展開催等)及び写真展等の開催
盛岡市 (財団法人盛岡国際交流協会)	アジアの屋台村	H21.7.5	プラザおでって	アジア各国の料理を屋台形式で市民に味わってもらい交流する
	在住外国人支援講座～盛岡生活オリエンテーション～	H21.10 H21.12	上田公民館等	在住外国人への生活支援事業としてごみ分別と防災を取り上げる予定
	料理講座	H21.6 H21.8 H21.10	プラザおでって	留学生等を講師に迎え、その国の料理と一緒に作ることで理解を深めるための講座
	語学講座	H21.6～H21.7 他	プラザおでって等	中国語・スペイン語・韓国語の語学入門講座
	「キッズ・レッツ・プレイ」英語であそぼう	年3回	プラザおでって等	幼児が英語に興味を持つきっかけを作る講座
	日本文化体験講座	H21.9		在住外国人に日本の文化を体験してもらい、日本への理解を深めてもらう講座
	中学生ビクトリア市研修	H21.10.17～24	カナダ・ビクトリア市	姉妹都市カナダ・ビクトリア市に中学生を派遣し、ホームステイや現地中学校での授業体験を通じて国際理解と姉妹都市交流を図る
	地球環境講座	未定	未定	未定
盛岡市教育委員会	盛岡市とアールラム大学との教育交流 (ALTの招聘)	通年(毎年継続)	盛岡市内	7名を招聘し、市立の中学校・小学校・高等学校に派遣する
	盛岡市とアールラム大学との教育交流 (大学留学生の受入)	H21.8下旬～ H21.12月上旬	盛岡市内	アールラム大学生の日本語習得、公立学校での英語授業への参加、日本でのホームステイをとおしての日本の生活習慣・伝統の研究、日本の教育実践の比較研究に協力するための受け入れ事業
	平成21年度米国アールラム大学留学生等オリエンテーション	H21.8下旬	盛岡市内	上記留学生と引率教授を対象に、盛岡市勢及び盛岡市の教育概要について懇談する
	平成21年度米国アールラム大学留学生等送別レセプション	H21.11下旬	盛岡市内	アールラム大学短期留学の終了にあたり、盛岡市滞在中の最後の思い出になるよう、夕食会を開催する
	盛岡ーインディアナ州交流派遣研修 (生徒・教員の派遣)	H21.10.24～ 11.6	アメリカインディアナ州	米国の学校生活・社会生活の体験、教育・文化・社会諸事情の視察をとおして日米相互の理解・交流、国際的視野の育成のため、市立中学生5名、市立高等学校生1名、引率教員2名を派遣する
滝沢村 (滝沢村教育委員会)	幼児国際理解交流会	未定	村内保育園	普段経験することの少ない外国人との交流機会を提供する
独立行政法人国立青少年教育振興機構国立岩手山青少年交流の家	広報・普及事業「テンパーク広場2009」	H21.6.14	国立岩手山青少年交流の家	国立岩手山青少年交流の家 (テンパーク) を広く地域に開放し、当施設の様々な活動プログラム等の体験を通して、施設の利用と理解の促進を図る。
	研修支援事業	通年	国立岩手山青少年交流の家	生活体験を始め、野外活動、創作活動等の各種体験活動や体育館・研修室等を利用した研修活動を支援する
独立行政法人日本学生支援機構東北支部	外国人留学生のためのジョブ・フェア2009	H21.12.23	仙台国際センター	留学生のキャリアを支援するため、講演と合同企業説明会を開催する



## 留学生関係資料

機関・団体名	事業・行事名称	開催時期	場 所	概 要 等
財団法人岩手県国際交流協会	国際交流情報誌「jien go」の発行	日本語：隔月 英・中語版：年4回発行予定		国際交流・協力・多文化共生などの情報を掲載 外国語版は生活情報など掲載
	外国人との交流会「ちやっとランド」	毎月第3土曜 15:00～17:00	アイーナ	文化・スポーツ、各国の行事などを通じた外国人との気軽な交流 (地域でも数回開催予定)
	いわて国際化人材活用ネットワーク事業	随時登録・派遣	県内	地域在住の外国人や国際交流で活動する人材を講師等として紹介
	外国文化紹介講師派遣	随時派遣	県内	外国文化理解に関する行事等へC I R、留学生等を講師として派遣
	外国人相談	随時	アイーナ等	相談窓口の設置、月例の相談日の開設、移動外国人相談の実施 外国人相談専門員(中国)は月～木 9:00～12:00 相談日は毎月第3水曜15:00～18:00
	日本語サポーター	随時登録・紹介		日本語学習を支援する日本語サポーターの登録と活用、地域での研修会の開催(八幡平市)
	多言語サポーター	随時登録・紹介		在住外国人を言語面で支援する多言語サポーターの登録と活用、研修会の開催
	中国語講座の開催	H21.4.9～6.11	アイーナ	岩手県中国人会との共催による中国語講座を開催
	国際交流団体助成	第1回： H21.4.13～5.31 第2回： H21.8.1～9.30		県内で行われる国際交流・協力・多文化共生に関する活動への助成 1/2助成、上限10万円(日本語教室の活動助成は上限3万円)
	2009年世界フェアトレードデイ in いわて	H21.5.10	アイーナ等	フェアトレードを紹介するイベント等
	フェアトレード・コミュニティ in いわてプロジェクト	H21.5～H22.2	アイーナ等	国内研修、ワークショップ、セミナー、ネバールとの交流等の開催
	ホームステイ受入	①H21.5.22～24 ②H21.11.7～9		①ドイツ青少年の指導受入 ②韓国 大学生受入
	在住外国人子育てサポート事業	H21.6～H22.2 (予定)	アイーナ	多文化子育てサロンの開催
	2009ワン・ワールド・フェスタ in いわて	H21.10.17	アイーナ	国際交流関係団体と連携した展示、企画イベント等 地域でも数回開催予定
協会設立20周年記念事業	H21.10.18	アイーナ	協会の設立20周年を記念した諸行事	
岩手県ユネスコ協会連盟	ユネスコ活動研修会(高校ユネスコ研究大会)	H22.1.22～23	国立岩手山青少年交流の家	ユネスコに関心を持つ高校生と全体会・分科会で交流を行う
インターナショナル盛岡ゾントクラブ	第19回外国人による日本語スピーチコンテスト	H21.10.8	プラザおでって	岩手県在住の外国人に5分間のスピーチ(内容自由)をしていただく
花巻ホームステイ協会	ホームステイ・ショートステイ体験	随時	花巻市内	花巻地域でのホームステイ・ビジットを体験したいと思う留学生と地域文化を一緒に楽しむ 1泊2日、日帰りから相談に応じる



# 留学生関係資料

## 岩手県内高等教育機関における外国人留学生数の推移

学 校 名	02年10月 (H14)	03年10月 (H15)	04年5月 (H16)	05年5月 (H17)	06年5月 (H18)	07年5月 (H19)	08年5月 (H20)	09年5月 (H21)
岩 手 大 学	190	199	177	197*	199	198	178	190
岩 手 県 立 大 学	13	15	13	12	25	26	30	32
岩 手 医 科 大 学	1	0	0	1	2	2	2	0
北里大学海洋生命科学部	1	4	5	5	5	3	1	0
富 士 大 学	15	40	57	81	97	114	125	141
盛 岡 大 学	1	1	0	0	0	2	0	0
岩手県立大学宮古短期大学部	6	3	3	0	1	0	0	0
岩手県立大学盛岡短期大学部	0	0	0	0	0	0	0	0
アレン国際短期大学	13	3	3					
修 紅 短 期 大 学	1	0	0	0	0	0	0	0
一関工業高等専門学校	8	9	9	6	5	5	6	7
計	249	274	264	301	334	350	342	370

\*岩手医科大学の学生であるが、岩手大学日本語研修コースにも在籍している学生1名含む

## 岩手県内高等教育機関における外国人留学生の受入れ状況(平成21年5月1日現在)

学 校 名	受入 人数	国 別 内 訳		経 費 種 別			学 生 種 別 内 訳				
		国 名	人数	国費	政府 派遣	私費	学部 学生	大 学 院			聴講生 その他
								修士	博士	研究生	
岩 手 大 学	190	中 国	110	9	0	101	17	40	28	12	13
		マレーシア	19	0	17	2	18	1	0	0	0
		モンゴル	13	0	0	13	9	0	4	0	0
		韓 国	8	1	0	7	2	2	2	0	2
		ベトナム	6	1	0	5	5	1	0	0	0
		バングラデシュ	5	1	0	4	0	1	3	1	0
		エジプト	4	0	1	3	0	1	3	0	0
		フィリピン	4	4	0	0	0	0	3	0	1
		アメリカ	3	0	0	3	0	0	0	0	3
		インドネシア	3	1	0	2	0	1	1	0	1
		フランス	3	0	0	3	0	0	0	0	3
		スリランカ	2	2	0	0	0	0	2	0	0
		ミャンマー	2	0	0	2	1	0	1	0	0
		イタリア	1	0	0	1	0	0	0	0	1
		キルギス	1	1	0	0	0	1	0	0	0
		シエラレオネ	1	1	0	0	0	0	1	0	0
		タイ	1	0	0	1	0	0	1	0	0
		ネパール	1	1	0	0	0	0	1	0	0
		パキスタン	1	1	0	0	0	0	0	0	1
		ホンジュラス	1	1	0	0	1	0	0	0	0
ロシア	1	0	0	1	0	0	0	0	1		
岩 手 県 立 大 学	32	中 国	28	0	0	28	3	15	2	3	5
		韓 国	3	0	0	3	0	1	1	0	1
		モンゴル	1	0	0	1	1	0	0	0	0
岩 手 医 科 大 学	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北里大学海洋生命科学部	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富 士 大 学	141	韓 国	86	0	0	86	86	0	0	0	0
		中 国	53	0	0	53	40	13	0	0	0
		ブラジル	2	0	0	2	2	0	0	0	0
盛 岡 大 学	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
岩手県立大学宮古短期大学部	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
岩手県立大学盛岡短期大学部	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
修 紅 短 期 大 学	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
一関工業高等専門学校	7	モンゴル	3	3	0	0	3	0	0	0	0
		インドネシア	1	1	0	0	1	0	0	0	0
		韓 国	1	0	0	1	1	0	0	0	0
		マレーシア	1	0	1	0	1	0	0	0	0
		ラオス	1	1	0	0	1	0	0	0	0
合 計	370		370	29	19	322	192	77	53	16	32